

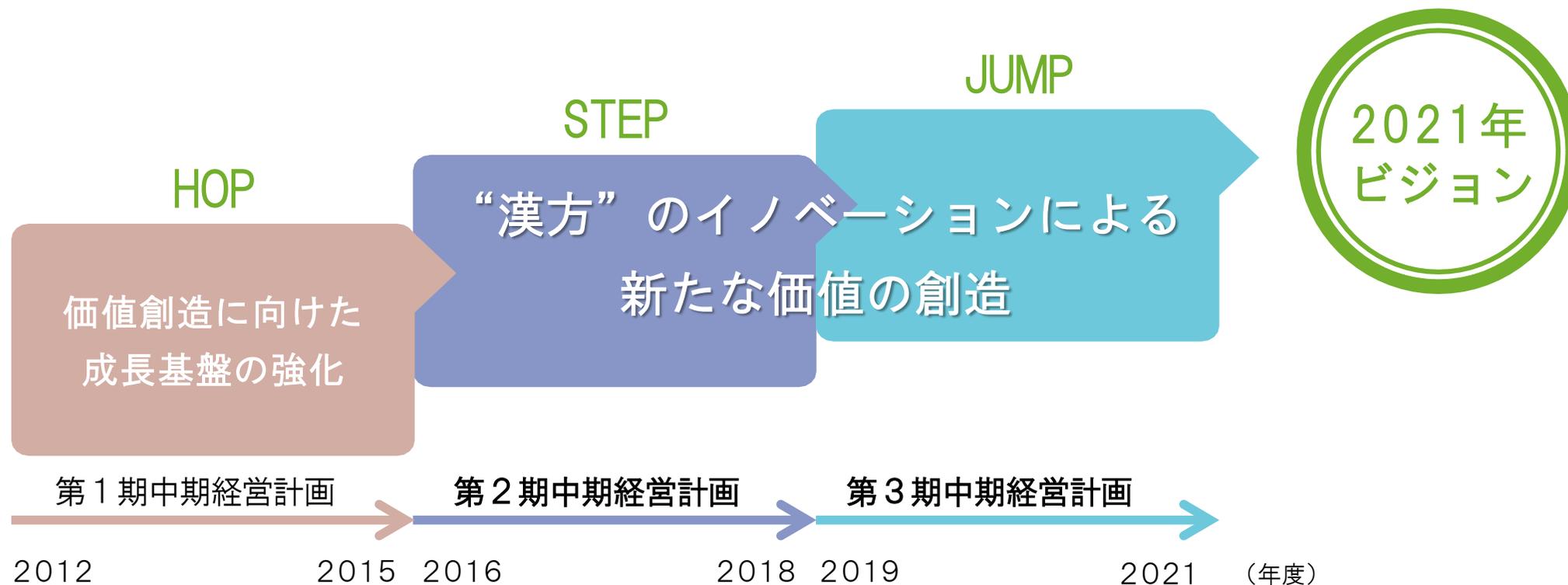
株式会社ツムラ 2018年度 第2四半期決算説明会

(2018年4月1日～2018年9月30日)

2018年11月7日(水)

代表取締役社長 加藤 照和

長期経営ビジョン実現へのロードマップ



- 戦略課題**
1. 漢方市場の拡大と安定成長
 2. 収益力の継続強化とキャッシュ・フローの最大化
 3. 中国における新規ビジネスへの挑戦

長期経営ビジョン ～2021年ビジョン～

“KAMPO”で人々の健康に
寄与する価値創造企業を目指して

“漢方” のツムラ

国内のどの医療機関・診療科においても、患者様が必要に応じて“漢方”を取り入れた治療を受けられる医療現場の実現に貢献

“人” のツムラ

世界に手本のない“漢方”ビジネスにおいて、自らが新しい道を開拓でき、誰からも信頼される“人”の企業集団へ

“グローバル・ニッチ” のTSUMURA

ツムラグループの持つ技術・ノウハウを最大限活用し、米国におけるTU-100(大建中湯)の開発・上市、中国における新規ビジネスへの挑戦

理念・ビジョン浸透研修・ツムラアカデミー

2018年度 第2四半期決算

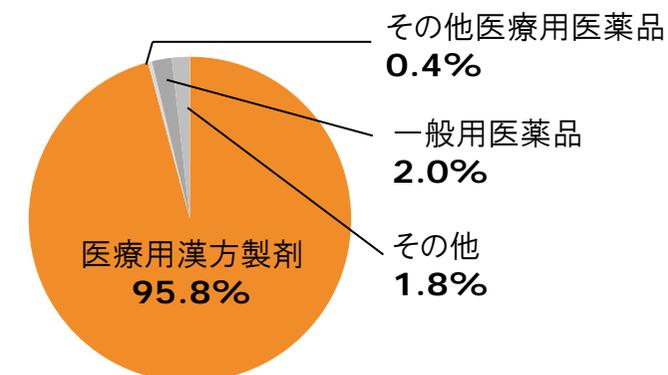
2018年度 第2四半期決算の概要

(百万円)

	2018年度 2Q計画	2018年度 2Q実績	達成率	2017年度 2Q実績	前年同期比	
					金額	伸長率
売上高	58,900	58,268	98.9%	58,282	△14	△0.0%
営業利益 (営業利益率)	9,100 (15.4%)	8,950 (15.4%)	98.4%	8,985 (15.4%)	△35	△0.4%
経常利益	9,100	9,566	105.1%	9,248	317	3.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,800	7,082	104.2%	6,614	468	7.1%

	2018年度 2Q計画	2018年度 2Q実績	2017年度 2Q実績
配当金 (1株当たり)	32円	32円	32円

売上高構成比



決算のポイント

- 売上高は薬価改定による影響下、前年同期比14百万円減収(計画比 △631百万円)
- 営業利益は計画未達、経常利益・四半期純利益は計画達成

連結売上高	58,268 百万円	計画達成率	98.9%	前年同期比	△0.0%
-------	-------------------	-------	--------------	-------	--------------

- 医療用漢方製剤の売上高は前年同期並み(+14百万円)

営業利益	8,950 百万円	計画達成率	98.4%	前年同期比	△0.4%
------	------------------	-------	--------------	-------	--------------

営業利益率	15.4 %			前年同期比	0.0pt
-------	---------------	--	--	-------	--------------

- 売上原価率は40.4% 生薬コストの低減等により、前年同期比△1.5pt、計画比+0.3pt
- 販管費率は44.2% 販売関連費用の増加等により、前年同期比+1.5pt、計画比△0.3pt

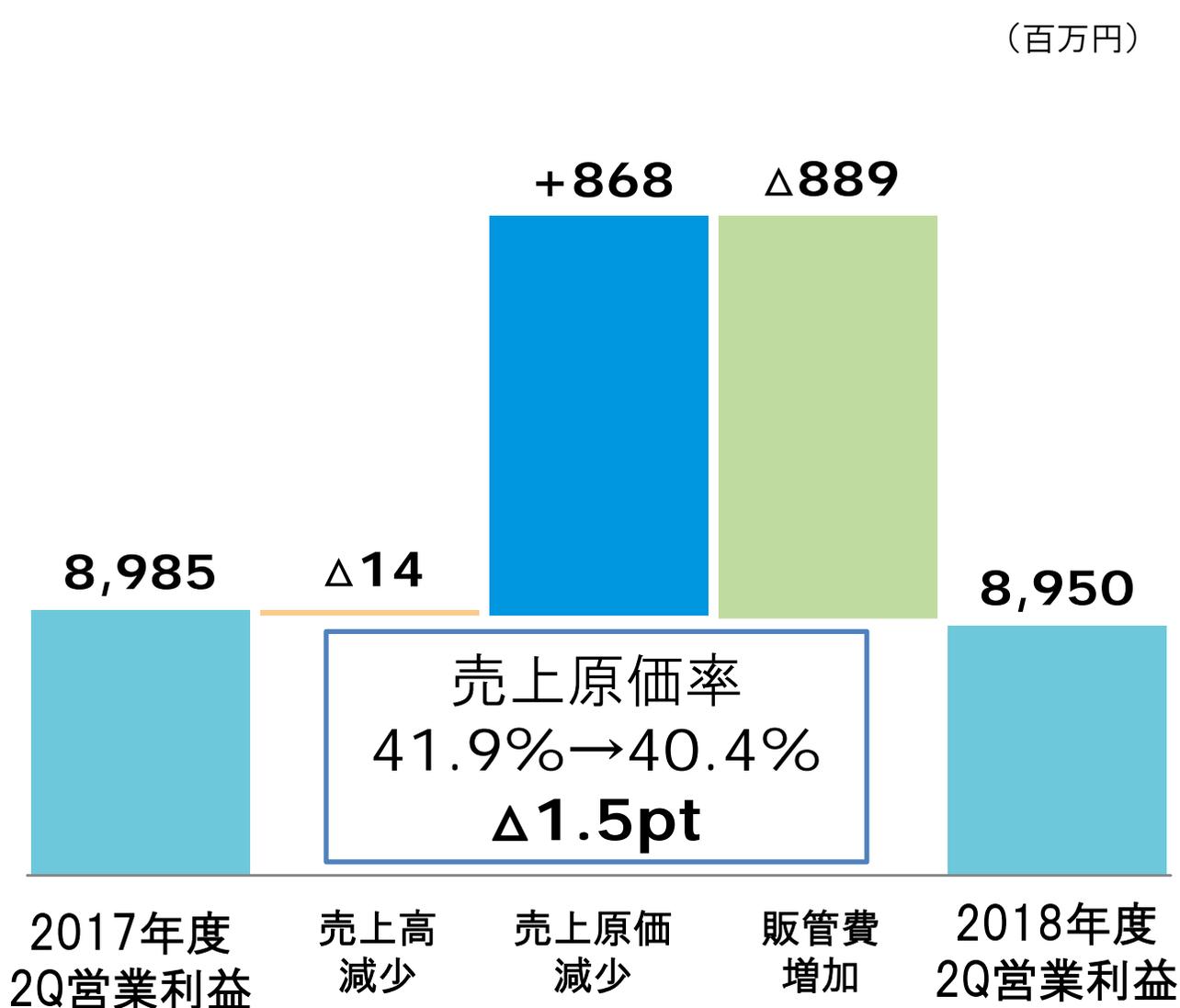
経常利益	9,566 百万円	計画達成率	105.1%	前年同期比	3.4%
------	------------------	-------	---------------	-------	-------------

- 海外子会社への貸付金に伴う為替差益が前年同期比+214百万円。前年同期は社債発行費(143百万円)を計上

親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,082 百万円	計画達成率	104.2%	前年同期比	7.1%
----------------------	------------------	-------	---------------	-------	-------------

- 投資有価証券売却益(324百万円)を特別利益に計上

営業利益の増減要因（前年同期比較）



売上高増減内訳

項目	金額 (百万円)
医療用漢方製剤129処方	+14
その他	△28

売上原価率増減内訳

項目	金額 (百万円)
薬価改定	+0.7pt
生薬関連コスト	△1.4pt
加工費の改善	△0.3pt
為替の影響	△0.1pt
その他	△0.4pt

販管費増減内訳

項目	金額 (百万円)
販促費、感謝金	+382
研究開発費	+13
広告宣伝費	+63
人件費	+242
その他	+188

財務状態とキャッシュ・フローの状況

バランスシート

(百万円)

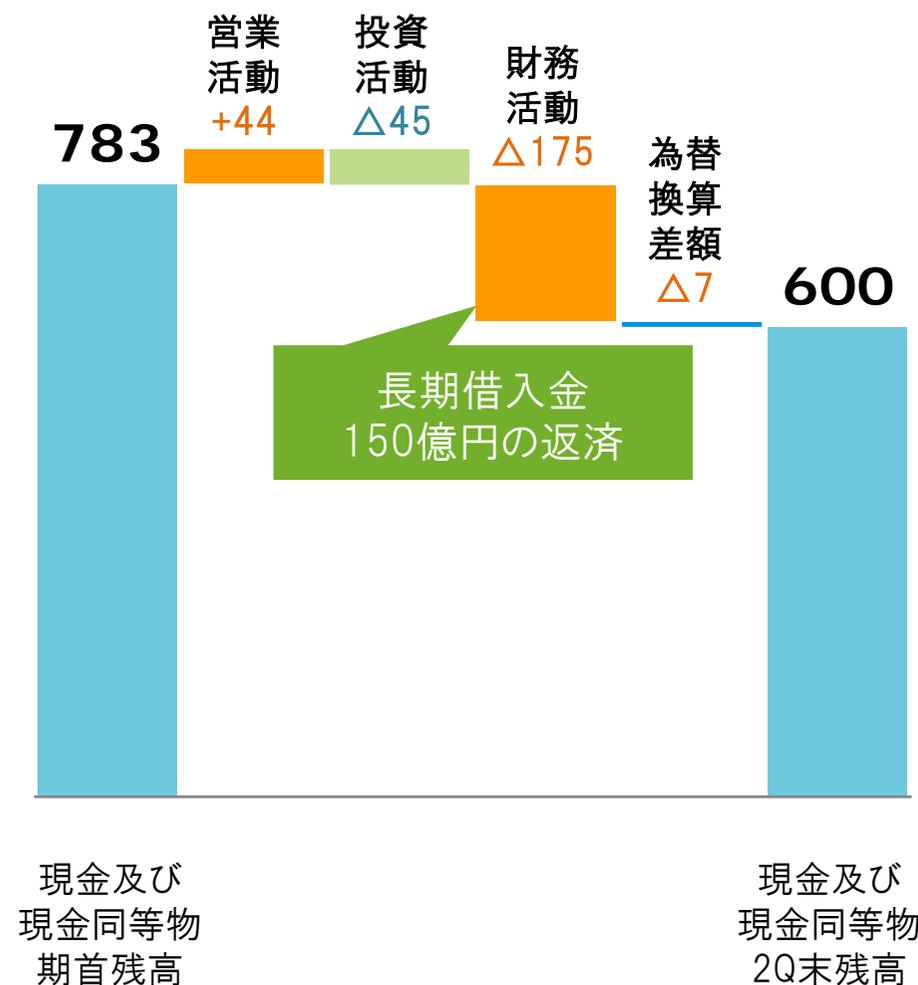
	2018年 3月末	2018年 9月末	増減額
資産合計	292,379	278,880	△13,499
流動資産	190,888	184,517	△6,371
固定資産	101,491	94,363	△7,128
負債合計	95,846	77,596	△18,250
流動負債	48,766	29,922	△18,843
固定負債	47,080	47,673	592
純資産合計	196,533	201,283	4,750
自己資本比率	66.2%	71.1%	4.9pt

(百万円)

B/S	2018年 3月末	2018年 9月末	比較増減
たな卸資産	49,994	50,713	718
(商品及び製品)	8,008	9,415	1,406
(仕掛品)	12,797	11,618	△1,178
(原材料及び貯蔵品)	29,188	29,678	490

キャッシュ・フローの状況

(億円)



戦略課題への取り組み・進捗状況

1. 漢方市場の拡大と安定成長
2. 収益力の継続強化とキャッシュ・フローの最大化
3. 中国における新規ビジネスへの挑戦

医療用漢方製剤（育薬処方・Growing処方）売上高

（百万円）

	売上順位	製品No./処方名	2017年度2Q	2018年度2Q	前年同期比	
育薬処方	1	100 大建中湯	5,351	5,226	△125	△2.3%
	2	54 抑肝散	3,864	3,848	△16	△0.4%
	4	43 六君子湯	3,577	3,559	△18	△0.5%
	9	107 牛車腎気丸	1,889	1,806	△82	△4.4%
	22	14 半夏瀉心湯	692	670	△22	△3.2%
合計			15,375	15,110	△265	△1.7%
Growing処方	3	41 補中益気湯	3,699	3,680	△18	△0.5%
	5	68 芍薬甘草湯	2,660	2,629	△30	△1.2%
	8	29 麦門冬湯	2,002	2,004	1	0.1%
	6	24 加味逍遙散	2,342	2,263	△79	△3.4%
	7	17 五苓散	1,921	2,112	190	9.9%
合計			12,627	12,691	63	0.5%
医療用漢方製剤129処方合計			55,784	55,799	14	0.0%

育薬処方: 近年の疾病構造を見据え、医療ニーズの高い領域において新薬治療で難渋している疾患で、医療用漢方製剤が特異的に効果を発揮する疾患に的を絞り、エビデンス(科学的根拠)を確立することを「育薬」と名付け取り組んでいる処方

Growing処方: 育薬処方に続く戦略処方として、治療満足度や薬剤貢献度の低い領域でのエビデンス構築(安全性・有効性データ等)により診療ガイドライン掲載を目指す成長ドライバー

長期経営ビジョン ～2021年ビジョン～

“KAMPO”で人々の健康に
寄与する価値創造企業を目指して

“漢方”

のツムラ

国内のどの医療機関・診療科においても、患者様が必要に応じて“漢方”を取り入れた治療を受けられる医療現場の実現に貢献

“人”

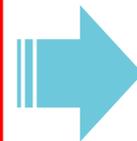
のツムラ

世界に手本のない“漢方”ビジネスにおいて、自らが新しい道を開拓でき、誰からも信頼される“人”の企業集団へ

“グローバル・ニッチ”

のTSUMURA

ツムラグループの持つ技術・ノウハウを最大限活用し、米国におけるTU-100(大建中湯)の開発・上市、中国における新規ビジネスへの挑戦



販売基本戦略：漢方医学の確立

医学生・医師等への「漢方医学教育」支援

卒前・卒直後・卒後の一貫した漢方医学教育支援

卒前(医学生)

卒直後(研修医)

卒後(医師)

漢方医学教育の充実・定着・発展

漢方医学セミナー

大学医学部・医科大学

- ・講義(概論)
- ・臨床実習(病棟/外来)
- ・学内教員育成研修会
- ・学内勉強会(サークル等)

臨床研修指定病院
(大学附属病院含む)

- ・研修医向け漢方勉強会

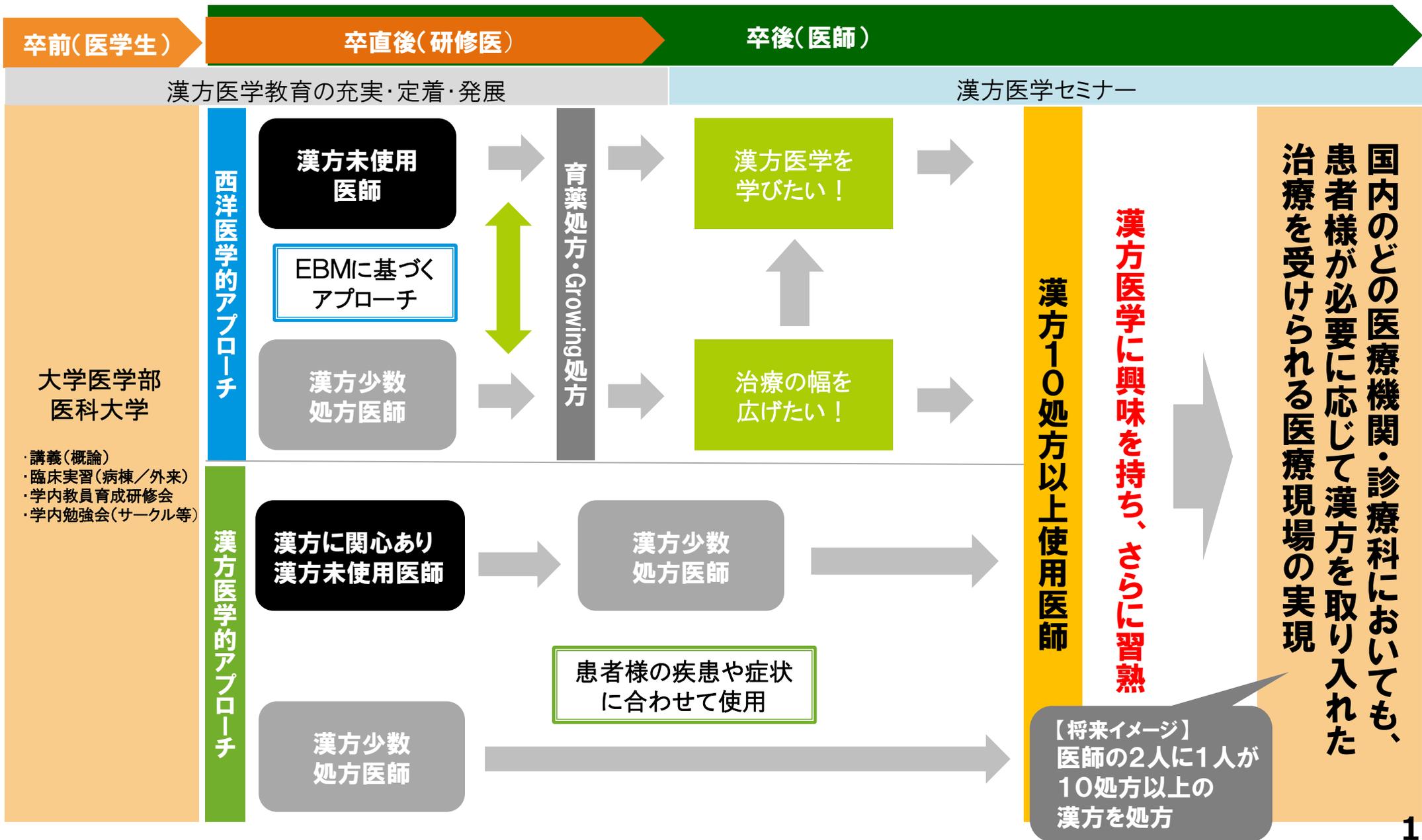
入門
フォローアップ
ステップアップ

漢方10処方以上
を使い分けできる
医師を増やす

将来イメージ

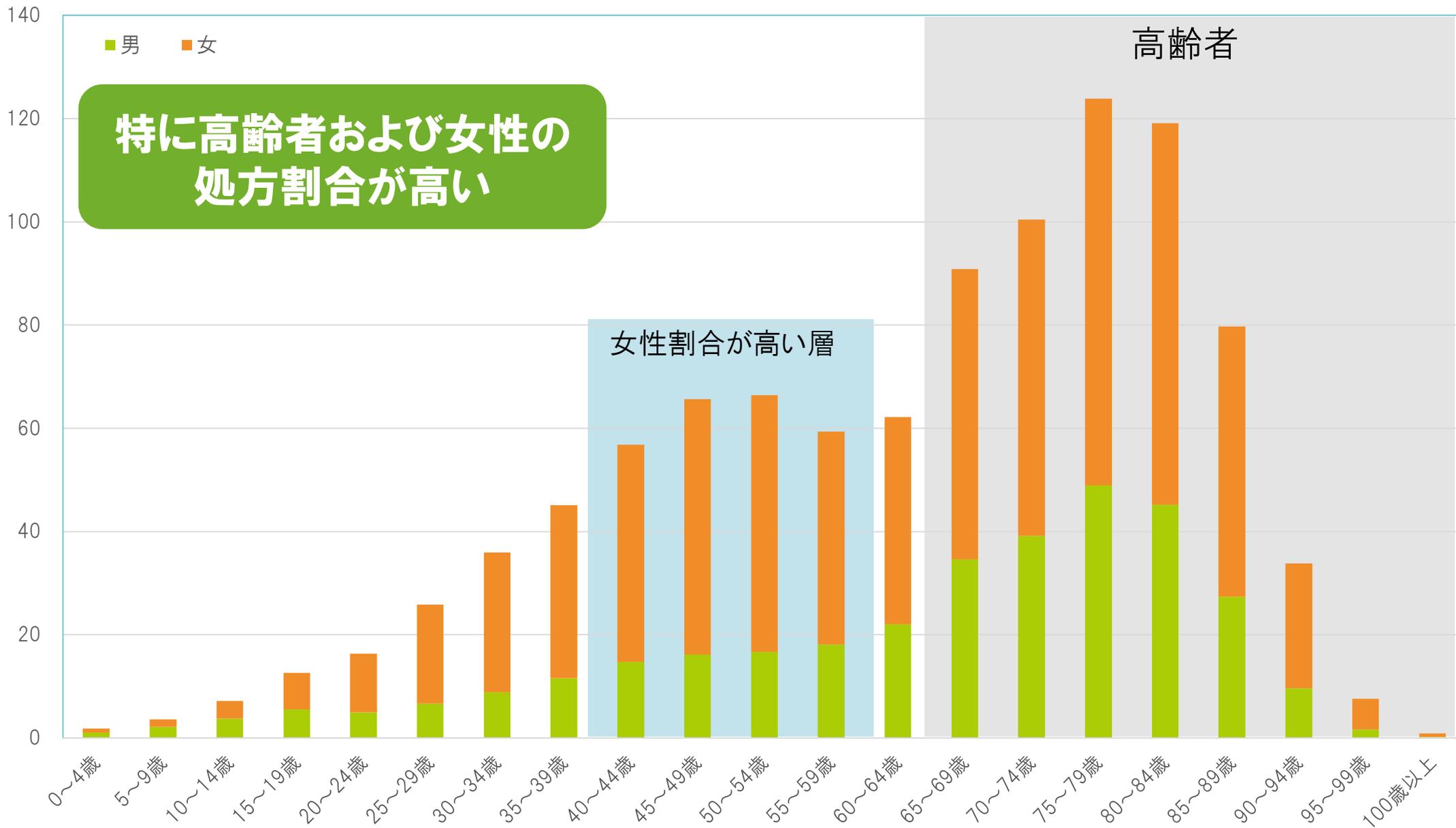
医師の2人に1人が10処方以上の漢方を処方

「10処方以上の漢方を処方する医師」へのアプローチ方法



医療用漢方製剤 年間処方金額（全市場・薬価ベース）

(億円)



出典：「第3回NDBオープンデータ」(厚生労働省) (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177221_00002.html)に基づき当社作成
医療用漢方メーカー上位100品目で算出

1. 漢方市場の拡大と安定成長

重点3領域と営業重点施策

国の施策

健康日本21

新オレンジプラン

地域包括ケアシステム

がん対策加速化プラン

女性活躍推進法

重点3領域	営業重点施策
<p>高齢者 関連領域</p>	<p>消化器領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃腸運動促進剤市場におけるシェア拡大(六君子湯 他) ・便秘における漢方処方を使い分け <p>漢方処方BPSDネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ステージ症状に適切な処方の選択
<p>がん領域 (支持療法)</p>	<p>消化器領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・術後、体重減少時の食欲改善(六君子湯) ・術後、腹部膨満感の改善(大建中湯) ・がん治療に伴う副作用の軽減(半夏瀉心湯 他)
<p>女性 関連領域</p>	<p>婦人科領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産婦人科漢方研究会等への動員 ・女性疾患関連処方のプロモーション強化 <p>消化器領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・便秘における漢方処方を使い分け

1. 漢方市場の拡大と安定成長

売上要因分析（六君子湯）

（百万円）

	前2Q	当2Q	前年同期比	
売上高	3,577	3,559	△18	△0.5%



計画未達要因

- **新規資材「DREAM Study*1」投入時期の変更による影響**
1Qにおける医師へのインパクト*2不足。資材投入効果は2Q以降に発現
- **消化器専門以外の開業医へのプロモーション不足**
競合品との薬剤優位性および有効な病態への訴求不足

消化器領域での更なるプレゼンス向上を目指す

*1 Dream Study:機能性ディスペプシア患者に対する六君子湯の有効性および安全性に関する多施設二重盲検比較試験

*2 インパクト:医師の認知度合い、印象

1. 漢方市場の拡大と安定成長

医師の処方意向と達成率（六君子湯）

(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
			資材投入後 			
医師の前向きな 処方意向*	37.7	34.1	38.3	40.1	41.5	39.0
六君子湯 計画達成率 (実売ベース)	94.7	95.0	98.3	100.1	100.3	100.9

* 『出典：アンテリオ「Impact Track」』
六君子湯計画達成率は社内データより作成

「DREAM Study」資材投入後の達成率は着実に上昇

* 第三者機関による医師の意識調査 以下7項目から選択(①、②を前向きな処方意向と算出)

- ①新規に処方するだろう
- ②処方を増やすだろう
- ③現状の処方を維持するだろう
- ④処方を減らすだろう
- ⑤処方を中止するだろう
- ⑥今後も処方しないだろう
- ⑦現時点では判断できない

1. 漢方市場の拡大と安定成長

六君子湯に関する対応策

現在の課題

ターゲット先におけるクロージング^{*}精度の更なる向上

市場環境、地域性、患者様の病状傾向等を網羅した提案力の向上

今後の取り組み

成功事例を基に、具体的なアプローチ法の共有と、MR個々の提案力の更なる底上げ

上部消化管疾患治療薬のファーストラインとしての地位確立

*クロージング: 面談を締めくくり、行った提案に対する合意を獲得するスキル

1. 漢方市場の拡大と安定成長

大建中湯に関する対応策

(百万円)

	前2Q	当2Q	前年同期比	
売上高	5,351	5,226	△125	△2.3%



計画未達要因

- **採用比率が高いHP^{*1}市場における環境変化への対応が十分でなかった**
 入院期間短縮化の傾向、退院処方^{*2}の減少、HPからGP^{*2}への移行過程における使用中断
 ケースの増加など

HPでの維持・拡大、連携先GPでの処方継続の強化

*1 HP:100床以上の病院(勤務医・研修医) *2 GP:100床未満の病院(勤務医)、診療所(開業医)

1. 漢方市場の拡大と安定成長

漢方処方BPSDネットワーク

(百万円)

製品No./処方名		2017年度2Q	2018年度2Q	前年同期比	
54	抑肝散	3,864	3,848	△16	△0.4%
137	加味帰脾湯	694	709	15	2.2%
108	人参養栄湯	403	678	274	68.1%
83	抑肝散加陳皮半夏	605	637	32	5.4%
合計		5,567	5,873	306	5.5%

重要施設(大学・臨研・認知症疾患医療センター)での院内採用が伸長

⇒認知症サポート医をターゲットとして、更なる処方使い分けを拡大

1. 漢方市場の拡大と安定成長

女性関連領域「産婦人科漢方研究会」の実施など

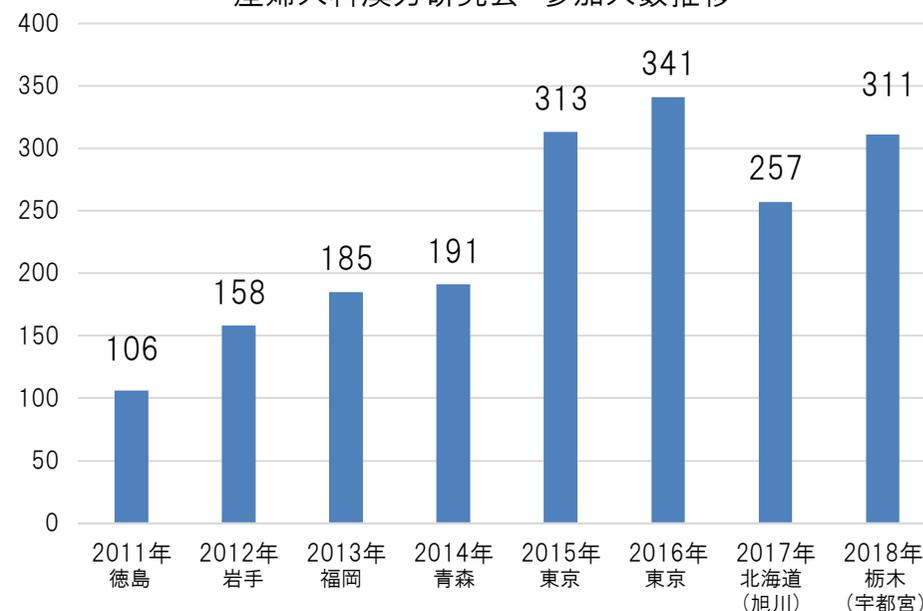
産婦人科漢方研究会



女性外来医師対象のセミナー



産婦人科漢方研究会 参加人数推移



東京以外の開催地においても、研究会参加者は年々増加傾向

【ご参考】2018年8月26日実施(宇都宮) 動員数:311名 演題数:56

**研究会・セミナーの継続実施と
内容充実による更なる活性化**

1. 漢方市場の拡大と安定成長 下期営業重点施策

	GP	HP
六君子湯	新規エビデンス活用	がん診療連携拠点病院中心
大建中湯	病診連携*におけるポジショニング確立	外科領域中心
BPSD ネットワーク	認知症サポート医への処方拡大	大学・臨研・認知症疾患医療センター へのプロモーションの更なる強化
その他	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 学会イベントとの連動 補中益気湯：TNT (Total Nutrition Therapy) 研修会ランチオンセミナー 五苓散：日本脳神経外科漢方医学会学術集会 など ➤ 診療ガイドラインに則った情報提供活動の強化 	

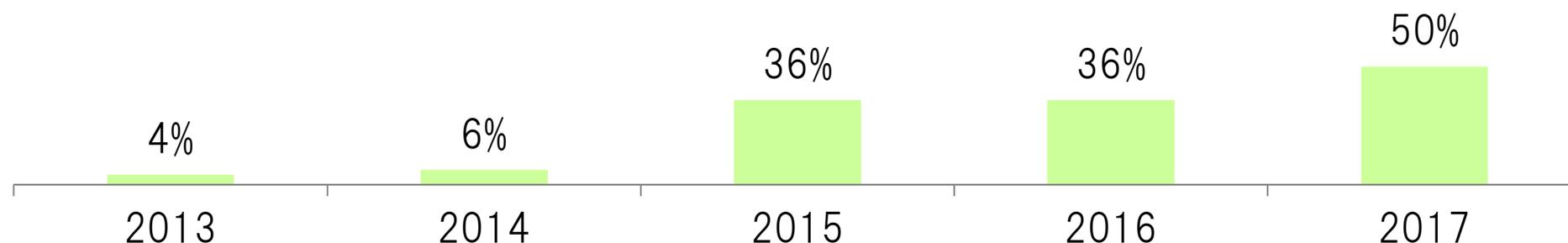
「漢方医学の確立」を目指した情報提供活動の徹底継続

*病診連携：病院と診療所がそれぞれの役割、機能を分担し、お互いに連携しながら、より効率的、効果的な医療を提供すること

2. 収益力の継続強化とキャッシュ・フローの最大化

自社管理圃場^{*1}の拡大状況

目的: 生薬の「品質・量・価格」の安定調達体制を目指す



「ツムラ生薬GACP^{*2}」の基準に合致

「日本向け生薬」と「中国新規事業向け生薬」を供給

*1 自社管理圃場: 一定規模の栽培面積を有し、当社の直接的な栽培指導ができ、栽培にかかるコストの把握とそれに基づく生薬の購入価格設定が可能な圃場

*2 ツムラ生薬GACP: WHOのGACPガイドラインを満たす、ツムラ独自のガイドラインである「ツムラ生薬GACPガイドライン」等を柱として、一般農作物の工程管理であるGAPの認証制度を参考に「教育・監査・認証」制度を加えた独自の「株式会社ツムラ 生薬生産の管理に関する基準」

3. 中国における新規ビジネスへの挑戦

中国事業の進捗状況 ～平安津村～

“生”人参と生薬を原料とした薬食材16品目のテスト・マーケティングを開始

薬食同源

「百合(ビャクゴウ)」



「枸杞子(クコシ)」



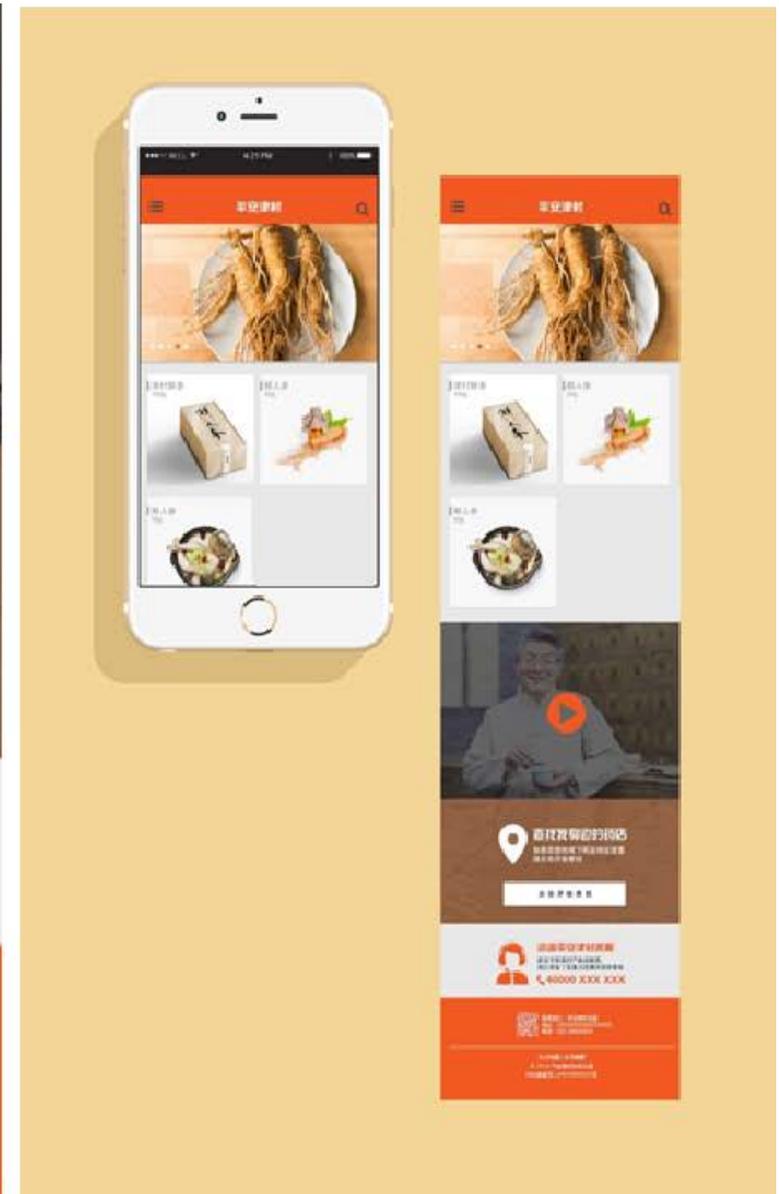
「人参(ニンジン)」



「薬食同源」とは、病気を治療する「薬」も日常の「食」も、ともに生命を養い、健康を保つためには欠かせないものであり、その源(みなもと)は同じ(同源)であるという意味

3. 中国における新規ビジネスへの挑戦

中国事業の進捗状況 ～平安津村～



スマートフォン向けサイト(平安津村)

3. 中国における新規ビジネスへの挑戦

中国事業の進捗状況 ～平安津村「分析研究センター」～



分析研究センター(平安津村 子会社)完成イメージ図

ESG活動のトピックス

国内生薬栽培の取り組み

原料生薬の安定調達体制としての国内生薬栽培拡大を通じた、耕作放棄地の活用、葉タバコなどからの転作、農業収入の安定化、後継者育成など、「一次産業再生」への貢献

株式会社マイファームとの資本業務提携

- 耕作放棄地の再生及び農業収益化事業への協業
- 大規模機械化栽培技術の共同開発
- マイファーム運営「アグリノベーション大学校」での『生薬生産教育』の実施



アグリノベーション大学校での講義風景



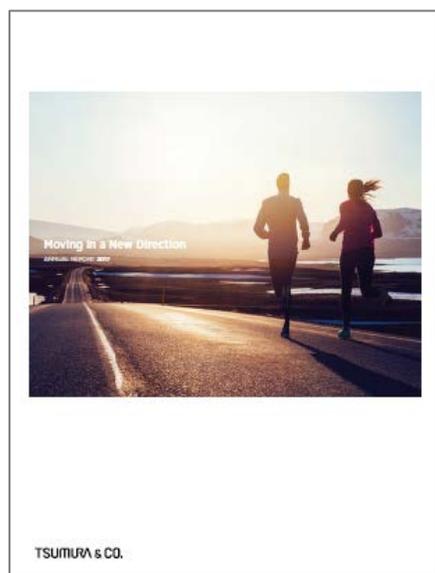
畑での実習風景

統合報告書 2018

当社サステナビリティのポイントと中長期的視点での企業価値向上への取り組みを明確にした『統合報告書』の発行(2018年度より)

2017年

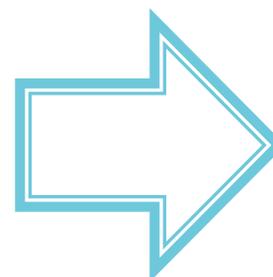
2018年



アニュアルレポート



コーポレートレポート



統合報告書

2018年度 業績予想

2018年度 業績予想

➤ 2018年5月10日の業績予想に変更なし

(百万円)

	2017年度	2018年度予想	前期比	
			金額	伸長率
売上高	117,879	120,500	2,620	2.2%
営業利益 (営業利益率)	17,050 (14.5%)	17,500 (14.5%)	449	2.6%
経常利益	17,914	18,000	85	0.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,504	12,800	△1,704	△11.8%

	2017年度	2018年度予想
配当金(1株当たり)	64円	64円
EPS	200円	167円
ROE	8.3%	6.4%

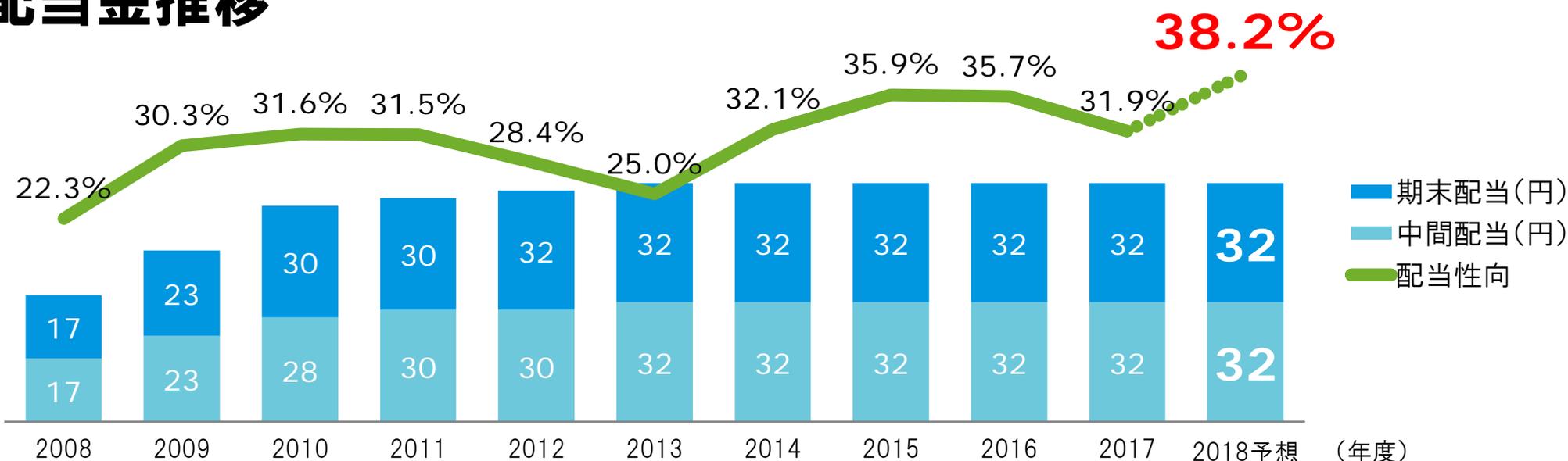
株主還元

株主還元

方針

- “漢方”が持続的に発展・成長するための事業投資を通じて、企業価値の向上を図る
- 中長期の利益水準やキャッシュ・フローの状況等を勘案し、安定配当を実施する
- 市場動向等を総合的に勘案したうえで、最適資本構成の検討・見直しを踏まえた株主還元努める

配当金推移



(注)2018年度の期末配当金および配当性向(予想)は、第83回定時株主総会による配当議案が決議された場合の数値を記載

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社ツムラ

コーポレート・コミュニケーション室

広報グループ

TEL:03-6361-7100

IR推進グループ

TEL:03-6361-7101

見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。